

尚同寺にはこの他に、斯界に著名な聖徳太子絵伝二幅を蔵するが、私はこれを調査していない。他に延徳二年（1490）施入の高野大師行状絵伝十巻があり、ほぼその頃の作であろう。十二天立像十二幅、仏涅槃図一幅、等も室町期を降らないものである。

この他に調査を行った所として吉野郡下市町内の願行寺、滝上寺等があるが、それらの詳細は近頃上梓を見た大和下市史に説明を試みた。又生駒郡生駒神社の生駒曼荼羅については、国華782号の一部に附説したので共に省略に附した。

#### 図版解説

#### 薬師如来坐像

京都 六波羅蜜寺

木造添箱 像高五尺三寸五分

与願施無畏印の通仏相に薬壺を持った薬師如来で、いわゆる半丈六の坐像である。見るからに堂々とした風姿をもつたもので、彫りの調子も力強い。この様式や手法などは、藤原前期の正暦四年（993）の納入文書をもつ滋賀県善水寺の薬師如来像によく似たもので、あるいはそれよりも多少古いようなところも見うけられる。それだけになかなかしつかりとした好い像である。こんなものが未だあまり人に知られずに残っているのであるから、六波羅蜜寺はやはり伝統の古い名刹である。

（小林 剛）